

5 めざそう 買い物名人

教師用指導例

5年 東書版 p.26~27

めあて 計画的な買い物ができるようになる。

【学習指導要領との関連】内容D 身近な消費生活と環境

(1) 物や金銭の使い方と買物について、次の事項を指導する。

- ア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること。
- イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

【アクティブ・ラーニングを意識した授業の流れ】

1 課題を見つける

説明1 前の時間では、「買い物の手順」を学習しました。今日は品物を選ぶときに必要なことを考えます。

発問1 ノートを買に行くと行くという計画を立てます。4冊のノートから1冊を選ぶとしたらどれを選びますか。

※実物を提示して、4冊のノートを紹介する。

- ア リングノート
- イ キャラクターノート
- ウ 3冊セット
- エ いつも使っているノート

※直感でいいので手を挙げさせ、見た目だけの情報では決められないことに気づかせる。

※買う物の設定については、学校や地域の状況に応じて変更ください。

2 課題を追究する

発問2 見た目以外に、どんなことが分からないと決められませんか。（「値段」、「ページ数」、「何に使うか」、「使いやすさ」……）

説明2 値段から見てみます。

※子どもに予想させながら板書する。

- ア 140円
- イ 150円
- ウ 200円
- エ 180円

※再度どれを選ぶか聞き、これだけでは決められないことに気づかせる。

※値段と同様に、何に使うか、ページ数についても確認していく。

- ア 140円 64ページ
- イ 150円 80ページ
- ウ 200円 1冊64ページ
- エ 180円 64ページ

説明3 ノートを使う目的は、算数の学習に限定します。

説明4 算数ノートとしての使いやすさを見るために、実際にノートを見てもらいます。見た後に、どのノートを買うのか、なぜそれを選んだのか、発表してもらいます。
※実際に手に取らせて、隣同士で自由に話し合わせる。

指示1 家庭科楽習ノートの26ページを開きます。「①目的を確かめる」～「③比べて考える」を記入します。選んだノートの記号と選んだ理由が書けたら、先生のところに見せに来ます。
※ノートの特徴を表にまとめる。
※書けたら前に持ってこさせ、書いた内容に赤丸をつけ、黒板前に並べて待たせておく。

3 討論する(発表) 4 異なる考えを認める

指示2 それでは黒板の前に出て発表してもらいます。「○○のノートを選びました。○○○○だからです。」のように発表します。

- (・アのノートを選びました。リングノートはノートが開きやすいからです。
- ・イのノートを選びました。表紙や中のノートにイラストが入っていて、可愛いからです。
- ・ウのノートを選びました。算数はたくさんノートを使うので、1冊あたりの値段が安いほうがよいからです。
- ・エのノートを選びました。紙質がよいし、方眼が入っていて計算しやすいと思ったからです。)

※例として、次のように教師の考えを示してもよい。

「先生はエのノートを選びました。算数の学習に使うという目的を考えると、エのノートは方眼になっていて、図やグラフが書きやすいからです。」

5 まとめる

説明5 買い物の際に優先することは、使う目的や人の好みによってもさまざまです。どのノートを選ぶか、正解はありません。ただ、よりよい品物を買うために、値段や量、品質、機能、環境への配慮がされているかなど、情報をよく確かめましょう。

板書の例

	値段	ページ数	ノートを使う目的
ア	140円	64ページ	算数の学習
イ	150円	80ページ	
ウ	200円	1冊64ページ	
エ	180円	64ページ	